

創世記53 創世記40章1節～23節

「献酌官長と調理官長の夢」

イントロ：

1. 創世記37章～50章は第11番目のトルドット（歴史、経緯）である。
2. 文脈を確認する。
 - (1) ヨセフ物語は、37章から始まった。
 - (2) 39章で、ヨセフはポティファルの妻の怒りに触れ、投獄された。
 - (3) 40章で、ヨセフの希望はさらに砕かれる。
 - (5) ヨセフとキリストの関係
- ①辱めの階段を下る。
- ②栄誉への階段を上る。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) 上司の信頼を得よ。(40:1～4)
 - (2) 隣人に関心を示せ。(40:5～8)
 - (3) 神との生きた関係を育てよ。(40:9～19)
 - (4) 夢を捨てるな。(40:14～15)
 - (5) 神の時を待て。(40:20～23)
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) ヨセフに起こったことは私たちにも起こる。
 - (2) 人生の最も暗い時に、どう忍耐するか。

このメッセージは、ヨセフの生き方から励ましを得ようとするものである。

I. 上司の信頼を得よ(40:1～4)

1. 神の摂理が働いている。
 - (1) 獄中のヨセフは監獄の長の信頼を得ていた。
 - (2) 献酌官と調理官が、ヨセフが投獄されていた監獄に拘留された。
 - (3) 神の摂理が働いていないなら、何も起こらない。
2. 献酌官と調理官
 - (1) 「給仕役と料理役」(新共同訳)
 - (2) 彼らは、献酌官長と調理官長である。

- (3) 献酌官長の仕事はぶどう酒を注ぐこと、調理官長の仕事は食事を用意すること。
- (4) 毒味の役割も負っていた。
- (5) 政治的相談役でもあった。

3. 彼らの罪とは何か。

- (1) 一番極端な可能性は、ぶどう酒とパンに毒を入れて暗殺しようとしたこと。
- (2) 軽微な可能性は、ぶどう酒の中に蠅が、パンの中に砂が混入したこと。
- (3) 人間の王に仕えるのは容易ではない。
- (4) 主イエスに仕えるのは、楽しいことである。

「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます」(マタ11:28)

4. 上司の信頼

- (1) 侍従長はヨセフを彼らの付き人にした。
- (2) 侍従長とはポティファルのことである。
- ①ヨセフの無罪を信じていたが、妻の手前投獄した。
- ②依然としてヨセフに信頼を置いている。
- (3) バプテスマのヨハネとヨセフの類似点
- ①ヘロデ・アンテパスは、ヨハネが無罪であることを知りながら、投獄した。
- ②最後は、ヨハネを斬首した。
- (4) 地位や身分(外面的祝福)を失っても、信頼をなくさないことが大切。
- ①不当な扱いを受けた時、その上司はその程度の人なのだと思え。
- ②必ず見ている人がいる。神が見ておられる。

II. 隣人に関心を示せ(40:5~8)

1. 神の摂理が働いている。

- (1) 2人とも夢を見た。
- ①同じ夜に
- ②それぞれ意味があった(隠されていた)。
- (2) 彼らは、それが神からの夢であることを認識した。

2. 他者への関心

- (1) ヨセフは、彼らの変化を読み取った。
- ①いらいらしていた。

②顔色が悪かった。

(2) 通常必要とされる範囲以上の気配り

①自分の問題から目を離して、他者を思いやる心

②僕でありながら、自由人である。

(3) 自分から声をかける行動力

①それが彼らの心と口を開いた。

②痛みを関している人は、声をかけられるだけで励まされる。

3. ふたりの夢

(1) 「私たちは夢を見たが、それを解き明かす人がいない」

①エジプトには、夢を解き明かす専門家がいた。

②しかし、獄中にはそういう人はいない。

(2) 「それを解き明かすことは、神のなさることではありませんか。さあ、それを私に話してください」

①神に栄光を帰している。

②自分に栄光が来ないための予防線を張っている。

③自信を持って勧めている。

④異国の地で、異国の王のために夢を解き明かすのはヨセフとダニエルだけ。

*エジプトとバビロン

*ともに、呪術師、占い師がいた国である。

Ⅲ. 神との生きた関係を育てよ。(40:9~19)

1. エジプトに売られて以来、神との関係が切れたことは一度もない。

2. 献酌官長の夢

(1) 1本のぶどうの木に3本のつるがあった。

(2) 短時間でぶどうが熟した。

(3) ぶどうを摘んで、パロの杯の中に入れた。

3. 解き明かし

(1) 3日のうちに、パロから呼び出される。

(2) もとの地位に戻される。

(3) パロの杯をその手に捧げるようになる。

4. 調理官長の夢

(1) 頭の上にかごが3つあった。

①「白いパンのかご」口語訳

②「枝編みのかご」新改訳

③「編んだ籠」新共同訳

(2) 一番上のかごには、パロのための食べ物が入っていた。

(3) 鳥がそれを食べてしまった。

5. 解き明かし

(1) 3日のうちに、パロから呼び出される。

(2) 木につるされる（斬首された後、体が）

(3) 鳥に食われる。

6. ヨセフの忠実さを見よ。

(1) 示されたまま、相手に伝えている。

(2) 私たちには、神の計画やメッセージを「改善」することは許されていない。

(3) 人の死、死後の裁き、イエス・キリストという名の他には救われるべき名はない。

IV. 夢を捨てるな。(40 : 14~15)

1. 献酌官長への歎願

(1) 献酌官長はもとの地位に就くとの確信があった。

(2) パロに自分のことを話して欲しい。

2. 嘆願のベース

(1) 「ヘブル人の国」

①そこはカナン人の国である。

②ヨセフは、アブラハム契約を覚えているのである。

(2) 無罪の主張

①さらわれてきた。兄たちを批判していない。

②投獄されるようなことは何もしていない。ポティファルの妻を批判していない。

V. 神の時を待て。(40 : 20~23)

1. 三日目はパロの誕生日

- (1) すべての家臣がそれに出席した。
- (2) 献酌官長と調理官長も呼び出された。

2. ヨセフの解き明かしが成就した。

- (1) 献酌官長は、もとに地位に復帰した。
- (2) 調理官長は、木につるされた。

3. 献酌官長はヨセフのことを忘れた。

- (1) この献酌官長は、恩知らずである。

①ヨセフの世話になった。

②夢の解き明かしを受けた。

③私たちが、このような体験をした時に、落胆してはならない。

- (2) 神の視点からは、計画が進展しているのである

4. ヨセフとイエスの相関関係

- (1) ヨセフと2人の囚人。イエスと2人の囚人。

(2) ヨセフは、「私を思い出してください」と言ったが、忘れ去られた。

(3) 囚人の一人は、「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください」(ルカ 23:42) と行った。

- (4) イエスは、私たちのことを決して忘れてはおられない。

結論

1. 地位や身分はなくてもいいが、信用はなくすな。
2. 自分の問題に集中するのではなく、隣人に関心を示せ。
 - (1) それは、摂理の門をノックすることである。
3. 試練の中でこそ、神との生きた関係を育てよ。
4. 現実がいかに厳しくても、神から与えられた夢を捨てるな。
5. 自分の計画を捨て、神の時を待て。